

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

特12

福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」

自己評価						
学校運営計画(4月)				評価(総合)		
学校運営方針	全教職員の共通理解の下、組織力を発揮し、創意工夫に満ちた学校創りを行う。			B		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標				
<p>○成果 本校スクールミッションの達成に向けて、生徒の実態に応じた指導体制を組みながら全職員が一丸となって日々の教育活動に取り組んだ。学校・家庭・寄宿舎が連携した指導、実習や体験活動の充実を図ったことで、生徒一人一人の基本的な生活習慣の定着や進路実現につなげることができた。</p> <p>○課題 受検者数及び入学人数の大幅な減少が最大の課題である。本校の魅力を全職員で整理し、在校生の学校生活、寄宿舎生活の充実と一人一人の可能性を広げる教育活動のあり方を全職員で検討し実践すること、中学校訪問や学校見学会、ホームページ等を活用し、情報発信を積極的に行うことが必要である。</p>	A ニーズに応じた進路実現	a 学年・進路指導部・特別支援教育部の連携を密にして効果的な就業体験、職場実習を推進する。	B			
		b 総合的な探究の時間、特別活動、自立活動の学習指導の充実を図り、一人一人のキャリア発達を促す。				
		c 地域社会と連携した実習等の実践的な学習活動を推進し、職業・社会生活への適応性を養う。				
		d ICTを効果的に活用した学習指導等の充実を図り、個別最適な学びを推進し、生徒のICT活用スキルの向上につなげる。				
	B 心と体の教育の充実	a 教育活動全体をととして、社会的スキルやコミュニケーション能力の向上を図る。	B			
		b 保護者や外部専門家、医療、福祉機関、中学校等との情報共有を図るとともに、連携した切れ目のない取組を推進する。				
		c 自立した職業生活、社会生活に必要な情報セキュリティ・モラル、健康・安全、食・性に関する教育を積極的に推進する。				
		d 学年・保健指導部・寮務部等、学校と寄宿舎の連携を密にして、心身の健康の保持増進と安心・安全な学校づくりを推進する。				
	C 寄宿舎教育の充実	a 学校、寄宿舎、家庭及び関係機関が密に連携し、生活管理能力の定着とよりよい生活の実現を工夫する力の育成を図る。	B			
		b てんぱい会を中心に、寄宿舎の活動や行事の活性化を進め、寄宿舎での生活を充実させる。				
c 選ばれる寄宿舎とするために、見学会やホームページ等を活用して寄宿舎生活の魅力を発信する。						
d 職員研修の充実を図り、一人一人の障がいの特性等に応じたきめ細かな支援と柔軟な対応を実践する。						
D 組織の活性化と専門性の向上	a 企画運営委員会、未来ビジョン委員会、校内編成準備委員会と各学年・分掌、事務室との連携を図り、職業専門コースや寄宿舎等に係る課題解決に向けて取り組む。	B				
	b 入学志願者の減少に対応するために、本校の特色を周知させる取組を、学校と寄宿舎が連携し組織的・戦略的に実施する。					
	c 若年者、ミドルリーダーの育成のためにOJTの充実を図る。					
	d 軽度知的障がい教育の専門校として、個々の生徒のキャリア発達を促す、職員の専門性を向上させる研修会を実施する。					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
第1学年	基本的な生活習慣を身に付けさせる。(B-a)(C-a)	家庭や寄宿舎と連携して、個の実態に応じた支援・指導を行う。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・帰舎日に遅刻する生徒の数は減ったが、身だしなみを整えて登校することが不十分である。 ・クラス内での役割、体育祭や就業体験等ととして仕事に対する責任感が高まった生徒が増えたが、挨拶・返事及び時間を守る習慣が徹底されていない。 ・特別の教科道徳を含む学習活動の結果、ルールやマナーを守る必要性に気付く生徒が増えたが、校外生活を含む様々な場面で実践できていない生徒がいる。 ・就業体験及び職場見学を計画・実施し、生徒たちは意欲をもって取り組むことができたが、就業体験先が卒業後の進路先と必ずしも結び付いていない生徒がいる。
	社会人の一員として他者と協働する態度を養う。(B-ac)	学校行事や学年・学級活動等ととしてそれぞれ役割を果たす場面を設定し、その支援を行う。 社会人としてのマナーに関する指導を学校生活全体を通して日常的に行う。	B	B		
	自尊感情を育む。(B-a)(C-d)	学校生活全体においてできていることを認め、称賛する場面を増やす。	B	B		
	将来の職業生活について意識を高める。(A-abc)	生徒自身が卒業後の姿をイメージできるような就業体験、職場見学を計画・実施する。	B	B		
第2学年	基本的な生活習慣を身に付け、定着させる。(A-c)(B-b)(C-a)	家庭や寄宿舎と連携して個の実態に応じた支援・指導を行う。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付けるために家庭や寄宿舎と連携した個別の支援・指導を継続する。 ・学校行事やホームルーム活動、各教科の授業においても称賛する場面を逃さないように取り組む。 ・相談週間等を利用して一人ひとりとゆっくりに話せる時間をつくり、悩みやトラブルの早期発見に努める。また、SCや医療機関と協力的な支援とするために保護者へ説明し、協力をお願いする。 ・担任、副担任だけでなく学年はもとより学校全体での活動とするための関係部署と協力的な進路指導を行う。 ・担当者が責任をもって企画や準備を行い、副担任や学年所属の方々の協力体制がとれたため、次年度も業務を分散していく。
	集団の一員という自覚を持ち、他者と協調し自らの役割を果たそうとする態度を養う。(B-a)	学校行事や学年、学級活動等ととして様々な経験を積ませる。 挨拶・返事の徹底を中心に、社会人としてのマナーに関する指導を日常的に行う。	A	B		
	自尊感情を育む。	自尊感情を育むために学級活動において称賛する場面を増やす。	B	B		
	将来の職業生活について意識を高める。(A-adc)	生徒自身が卒業後の姿をイメージできるような就業体験等の進路行事や学級活動を計画・実施する。	A	A		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	<p>A : 適切である</p> <p>B : 概ね適切である</p> <p>C : やや適切である</p> <p>D : 不適切である</p>
	項目ごとの評価
A	<p>学校関係者評価委員会からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年という月日を通じて自立を図る取組が生徒一人一人に確かに根付いている。 ・課題を具体的にすると良い。具体的でないために評価が低くなっているのではないか。 ・評価はAが適切と考える。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年と同じく、3年という月日を通じて自立を図る取組が生徒一人一人に確かに根付いている。 ・課題を具体的にすると良い。具体的でないために評価が低くなっているのではないか。 ・評価はAが適切と考える。

第3学年	継続力や持続力に重点を置いた、生活管理能力の育成および定着を図る。(C-a)	生徒が日常の学校生活を見直しをもって、落ち着いて送れるように、環境作りに努める。	A	B	B	・見直しをもって生活することができるようにスケジュール帳の活用を月1回行ったり、道徳等の学習を通して様々な立場について考えたりする機会を設けることは計画的に行えた。しかし、実践の機会やチャレンジできる環境の提供が足りなかった。 ・自らの役割を果たしたり、すべきこととしてはいけないことを判断したりする場面は修学旅行や体育祭時に主体的に行っていた。しかし、日常生活の中で継続できるような手立てが必要であった。 ・進路学習をビジネスマナーを軸に計画的に進めることができた。より実践的なもの、労務についての基礎知識や実習以外の職場を知る機会等を増やせるとよい。	A	・1、2学年と同じく、3年という月日を通じて自立を図る取組が生徒一人一人に確かに根付いている。 ・生徒が体験する機会は重要であると考える。経験とそのフィードバックの場が増えるといふ。 ・評価はAが適切と考える。					
		チャレンジできる環境を作り、できたという手応えを感じられるようにする。	B										
	周りの人のことを考えて自分のすべきこと、してはいけないことを判断し、行動する実践力を育成する。(B-a・c)	協調し自らの役割を果たす習慣が身に付くように、様々な立場での経験が積めるようにする。	A	B									
		自己有用感を高めるために、意図的設定した協働作業場面で取組の結果や取組の経過を振り返ることができるようにする。	B										
職業・社会生活への適応性を養うため、将来の生活について意識を高める。(A-a・c)	卒業後の姿をイメージできるような具体的かつ実践的な進路学習の機会を増やす	B	B										
教務部	職業的自立及び社会参加を実現することができるための教育課程の整理・見直し、職業専門コース再編の具体的な内容の検討を行う。(A-b)(B-c)(D-a)	社会情勢等を踏まえ各方面からの最新の情報収集と本校生徒の実態を踏まえた教育課程全体の整理・見直しに努める。 校内編成準備委員会と連携し、職業専門コース再編が着実に生徒の力を育む内容となるよう検討を行う。	B B	B	A	・昨年度行った教育課程及び時制の見直しを受け、休み時間時間の修正を行った。次年度は、時間割作成時に専門の配置を工夫するなど、より効果的なものとなるよう検討を行いたい。また、職業専門コース再編に伴う教育課程全体継続的な審議、見直しを進めていきたい。 ・職業専門コース再編のため、県内外の着実な情報収集に努めた。今後、具体化することが課題である。 ・中学校訪問など職員の様々な協力のおかげで、適正な選考ができる入学志願者数を確保することができた。次年度も庶務広報部との連携など工夫をしつつ、今年度同等の広報活動を続けていきたい。 ・学校見学は、昨年に比べ見学者数や見学される方の熱心さなど良い変化が見られた。ネットの導入は効果的であった。次年度は、年間行事計画に位置付け、回数は従来に戻し受入の人数設定を増やして実施する。生徒からの説明、実演など見学者に好評であった内容については充実を図りたい。	A	・中学校の訪問等、草の根活動が実績として現れている。一つ一つの前向きな取組の裏にある努力と研鑽が容易に読み取れる。 ・在籍中にAIを活用できるように指導すべき。規範意識の育成は必要であるが、避けて通れないこと。					
	本校の特色や魅力を周知させる取組を組織的・戦略的に実施し、入学者選考志願者の確保に努める。(D-b)	中学生進路相談事業への参加、各教育事務所で開催される特別支援教育関連の研修会での広報、本校主催で中学校等に向けた進路相談会、中学校等へ直接出向いての広報活動を実施する。 関心のある中学生及び保護者が学校見学に来やすいよう、回数の検討、ネット予約の導入などを行う。	A A										
	生徒指導部	生徒が安心して過ごすことのできる学校づくりを行う。(B-a, b, d)	生徒の日頃の行動を観察して実態把握に努め、必要な情報を共有しながら生徒指導にあたる。 学年や他部署と連携し、生徒の実態に応じた指導を実践する。 いじめアンケートを実施していじめの早期発見、早期対応のための情報を共有し、指導の充実を図る。	B B B					B	B	・生徒の情報や指導の方向性を学級や学年で共有しながら生徒指導にあたることができた。他部署との連携については、不十分であったように感じた。より効果的な生徒指導を行うためには、特別支援教育部、保健指導部と連携することが必要不可欠であり、今後の課題である。 ・月1回のいじめアンケートを実施し、生徒の情報共有を密に行うことでいじめの早期発見、早期対応に努めた。 ・問題行動については、生徒の実態に応じて指導を行うことができたが、指導の経過を共有することができていなかった。学年全体や全職員、寄宿舎が共有・確認できる場を設定することが次年度の課題である。	A	・生徒の情報、人間一人を把握することは、大変な作業であり、自身も職場実習を通して感じている。 ・生徒指導の土台として、生徒支援が重要である。生徒支援の条件は、生徒理解である。校内での連携、保護者との連携の充実を図っていただきたい。 ・問題行動等は「0」にはならない。効果的な取組を地道に継続してほしい。 ・評価はAが適切と考える。
		寄宿舎及び保護者との連携の強化を図る。(B-d)	学年、寄宿舎の指導方針の共通認識・相互理解を深めるとともに、相互の環境で起こった問題行動を共有し、生徒指導にあたる。 学級担任・寄宿舎部屋担任との密な情報交換ができるように関係者・分掌に働きかける。内容に応じてはケース会議等を行い、学年全体または全職員への情報の説明(提示)を行う。	B B									
進路指導部		生徒・保護者のニーズに応じた就業体験・職場実習を実施する。(A-a, A-c)	3年職場実習は生徒・保護者のニーズを把握し、そのニーズに応じた職場開拓を行い、職場実習、就労へ繋げる。 2年・1年の就業体験は、保護者・生徒自身に就労に対する意識の向上が図れるように、興味・関心のある職種等を考えさせるとともに、自分の適性に合った事業所を意識させ、就業体験に繋げる。	A A	A	A	・3年生の職場実習及び1・2年生の就業体験については、生徒・保護者のニーズに沿った実習場所・体験場所を開拓することができた。次年度以降も、生徒の希望に沿った実習場所・体験場所の開拓を行う。 ・A型事業所等の説明会に対する進路指導部の職員派遣は不十分であった。次年度以降は派遣回数を増やしていきたい。 ・企業に関する情報の管理方法に不安を感じた。情報管理に対して、学校全体が意識の向上を図らないと、企業の信頼を失うことにつながると危惧している。	A	・障がい者雇用の機運は高まっているが、真に人を大切にしたい企業の見極めが重要。 ・3年間で企業と生徒とのミスマッチを減らす。 ・社会での「耐える力」を養う。A型事業所の利用した出口の確保は素晴らしい。				
		進路に関する情報収集を行う。また、保護者に対する進路情報の発信を行う。(A-a, A-c, D-b)	今後ニーズが増えると思われるA型事業所等の事業所説明会に進路指導部職員の派遣を積極的に行う。 保護者に対して、進路だよりを発行し、進路に関する情報発信に努める。	D A									
	保健指導部	生徒の健康管理意識を高めさせる。(B-d)	寄宿舎と連携しながら生徒個々の身体状況や健康状態の把握に努め、体調不良の生徒に適切に対応する。 衣服の調整、手洗い・うがい、水分の補給等の指導を定期的に行う。また、保健委員会を中心に手洗いや教室の換気等の呼びかけを行い、生徒の健康管理に関する指導を行う。	B A	A					A	・保健委員会と連携して、手洗い等の動画を撮影して衛生面の意識を高めることができた。寄宿舎との連携については、生徒の体調を密に連絡し、対応を検討する必要がある。また、体育や余暇活動時の怪我が非常に多く、運動をする際の周辺環境や安全管理について、生徒、職員に周知していく必要がある。 ・アレルギーに関する研修会を臨時に行い、職員のアレルギー対応の意識を高めることができたが、次年度エビベン対応を必要とする生徒や難病指定を受けている生徒がいるため、情報の共有と対応の徹底を図る必要がある。 ・栄養に関する授業を栄養教諭と家庭科、保健体育科と連携して行うことができた。 ・生徒の人数の関係から清掃区域を変更したため、次年度は各掃除場所の選定や人数の調整を図る必要がある。 ・性に関する指導については、各学年生徒の実態に合わせて実施することができた。また、外部講師を招聘しての学習を全学年実施することができた。 ・性に関する指導の学習内容について、家庭科、保健体育科と連携を図り、計画的に実施することができた。	A	・社会に出た後の対応力や適応力を養う取組を充実させるとより良い。 ・生徒の健康面、アレルギー対応は重要。情報の共有と対応の徹底を図るための具体策を検討してほしい。 ・命の問題に関わる内容が多い。保健指導部から他の分掌と繋がっていくと、多くの職員が関わることになり、うまくいくのではないかと。
		安全な食を提供し、望ましい食習慣を定着させる。(B-d)	研修会等を利用して、食物アレルギーや減量食等、食事に配慮が必要な生徒の実態を全職員で把握し、対処する。 栄養教諭や家庭科と保健体育科と連携を図り、栄養のバランスや適切な量を考えられるようする。	A A									
環境美化に努める生徒を育成する。		毎日の清掃活動や各教室の整理整頓の指導を徹底する。	B	B									
		大掃除等で様々なグループ活動を設定することで、協力し、工夫しながら清掃に取り組ませる。	B										
生徒の実態に合わせて、性に関する指導を充実させる。(B-d)		学年ごとに性に関する学習の内容を再検討し、生徒の実態に応じた指導を行う。	A	A									
		学年及び家庭科、保健体育科と連携し、教科横断的指導を行う。	A										

特別支援教育部	職員の専門性の向上を図る。(D-d)	校内の関係分掌、外部の専門家や機関との連携を密にとり、障がいの理解と対応、福祉サービス等についての研修を計画し、実施する。	B	B	B	・SCやビジョントレーナーから職員研修を行ってもらい職員の専門性の向上につながったと考える。しかし、福祉サービスの関係についての研修は行えなかった。来年度、実施できるよう早い段階から考えたい。 ・ケース会議を6回実施した。全く登校できなかった生徒がケース会議を行い週1、2回は登校できるようになったケースもあった。しかし、解決に至らないケースも多々あった。学年や担任等と定期的に連絡をとり早めにケース会議を開く必要性を強く感じた。 ・今年度から中学校訪問や進路相談事業をとおして、教育相談についての説明を行うことができた。このような場面を来年度も増やしていきたい。	A	・あらゆることを生徒の意思表示と捉える。改善したと思われる言動も現象に過ぎず、根本的な解決になっていないこともある。 ・課題に対応しているので、評価はAが適切と考える。
	一貫したきめ細かな支援を行えるよう、校内、校外の関係者との連携に努める。(B-b)	生活や学習での困り感が強い生徒については、早めに担当職員から係へ相談できる環境を整え、分掌会議等を通して、ケース会議や関係機関との連携へつなげ、適切な支援方法を探っていく。	B	B				
	センター的機能の充実を図る。	生徒の支援に関する相談が増えるように、地域のセンター的機能に関する広報を行う。	B	B				
研修部	各教科等における系統的かつ教科等横断的な指導の充実を図るための研究を行う。(A-b、D-d)	新学習指導要領において整理された各教科の目標及び内容について理解を深めることができるように、各教科内で系統的かつ教科等横断的な指導の充実に向けた協議を行う。 各分掌と連携を図り、校内研修を計画実施する。校外における研修については、掲示板等を活用し周知する。	A	A	B	・学校教育研究では、各教科で他教科とつながりそうな内容について協議を行うことができた。系統的な視点に関して、企業より外部講師を招聘し、卒業後の就労を見通した指導の在り方について職員研修を実施した。来年度以降は縦及び横のつながりを意識した各教科の指導計画を整えていくとともに、授業研究を行い系統的かつ教科等横断的な視点を深めていく必要がある。 ・若年教員研修、教育実習、介護等体験については円滑に実施することができた。介護等体験は、当日に体験生1名が体調不良のため、1名については、再度日程調整を行い、後日実施した。	A	・多種多様な企業があり、考え方が異なる。より多くの声を聞くことが大切。 ・授業研究を系統的かつ教科等横断的な視点で深めるための具体的方策を検討するとよい。 ・安全、安心できる人間関係を知ることができ研修を実施する。 ・評価はAが適切と考える。
	高い専門性を有する後進の指導者の育成を目的とした研修、および実習を実施する。(D-c、d)	若年教員研修(1年目、2年目、3年目)において、教科主任等と連携を図り、有益な研究授業ができるよう調整する。 大学との連絡調整や校内での指導体制作り等の在り方を検討し、教育実習や介護等体験を円滑に実施する。	B			B		
	定期的、計画的にPTA理事会を開催し、取り組みの確認や意見交流を行う。 PTA役員理事を中心として、研修の内容を検討し、2、3回の研修会を実施する。 PTAとして、体育祭や花壇づくりの取り組みを行う。 加盟している様々なPTA団体の総会、研修会など積極的に参加できるようPTA役員理事と連携する。	B	A			B		
庶務広報部	PTA役員と連携し、PTA活動を推進する。(A-a)(B-b)	定期的、計画的にPTA理事会を開催し、取り組みの確認や意見交流を行う。 PTA役員理事を中心として、研修の内容を検討し、2、3回の研修会を実施する。 PTAとして、体育祭や花壇づくりの取り組みを行う。 加盟している様々なPTA団体の総会、研修会など積極的に参加できるようPTA役員理事と連携する。	B	B	B	・来年度のPTA研修の内容や学級委員の取り組みを検討する必要がある。今年度のPTA研修の取り組みについては、参加人数が5名～10名程度であったので、保護者が参加しやすい時期や時間もあわせて検討していきたい。 ・中学校訪問については、学校全体で分担して取り組みを。また、近くのショッピングセンターで生徒美術作品展を開催し、追加の広報活動を行った。来年度も実施するか、検討したい。ホームページはAWSへの移行を9月30日までに終わらなければならない。 ・チャイムについては、通常時制ではなく、特別時制が頻繁にあるので、ミスがないよう、注意する必要がある。プロジェクトについては、購入後、年数が経ってきているので、修理・廃棄などの検討を行う必要がある。	A	・SNSでの情報発信は、動画を増やすとより伝わりやすくなるのでは。 ・ホームページを見ている人は少ない。情報発信についてSNSを活用した方がよい。 ・評価はAが適切と考える。
	本校の広報活動の充実を図る。(D-b)	広報活動の一環として、中学校訪問に関する業務を行う。 本校の教育活動を紹介するため、学校要覧や学校パンフレットの発行を行う。 学校ホームページの情報を最新にし、積極的な情報発信を行う。	B			B		
	授業や学校生活における適切な視聴覚環境を整える。(A-d)	プロジェクトなどの情報機器の管理業務を円滑に行い、活用しやすくする。 視聴覚教室の放送設備やチャイムのシステム等の管理運営を行う。	B			B		
寮務部	学校、家庭、関係機関等と連携しながら、社会生活に必要な技能、態度の育成を図る。(C-a)	全体会、連絡会等を活用し、職員間で確実に情報を共有する。 評価表を活用し、個々の目標を把握した上で、職員全員で共通した指導を行う。 指導記録簿、生活自立段階表、WINGだより等で細やかに学校、家庭に伝える。	A	B	B	・生徒の問題行動等について、従来通り各棟を中心に対応する流れとなっているため、新設の生徒指導班が十分機能できなかった。そこで、次年度は各棟主任・副主任などから成る棟運営班を置き、学校の生徒指導部と連携を図る。 ・生徒同士の過度の接触によるトラブル(他害、性の問題)があった。舎内のルール、善悪の判断について、生徒たちに理解できるよう伝え、全職員で一貫した対応を行うよう、職員の共通理解を図る必要がある。 ・生徒の安全を守るため、必要があれば所持品検査ができるよう、年度初めに保護者に許可を得ることを検討する。 ・チェックシステムの改良や研修を行ったが、依然として授業ミスやアレルギーに関するヒヤリハット事例があったので、各職員の意識喚起のための呼びかけや掲示を続けていく。 ・インスタグラム等の更新で外部への発信を随時行った。次年度はG学校見学用動画更新に向けて取り組む必要がある。 ・次年度の職員数減に向けて業務内容を見直し、本来の寮舎業務以外の内容を削減する方向で検討する必要がある。	A	・授業ミスやアレルギーに関するヒヤリハット事例については、各職員への注意喚起のための呼び掛けや掲示に関して、効果的な取組を検討するとともに、情報共有や連携に努めていきたい。 ・余暇活動の充実等、生徒が皆で楽しめる取組を定期的実施していただけるとありがたい。 ・評価はAが適切と考える。
	余暇時間を充実させ、生徒の自主性を高める。(C-b)	舎内のルールや日課、行事の見直しを行う。	A			A		
	寄宿舎の魅力の再発見及び創出を行い、発信する。(C-c)	寄宿舎の魅力を分かりやすく伝えるため、紹介の方法を工夫する。	A			A		
	安全管理を確実にするための体制づくりをする。(C-d)	授業やアレルギー対応等に関して、ダブルチェックを取り入れたシステムを用い、全職員でシミュレーションをして確認したうえで確実に実施する。	B			B		
	生徒が自らの生活規律や健康管理について考えられるような、個に応じた支援を行う。(C-d)	SCのコンサルテーションやケース会議等で得られる情報を共有し、適切な指導・支援に生かす。 特性に応じた指導・支援について寮舎内で検討を行う。 専門性を効果的に高められるよう、職員研修の回数、内容、方法の見直しを行う。	B			B		
			B			B		

自己評価及び学校関係者評価委員会評価を踏まえた今後の改善策

- ・各項目において、適切な評価につなげるために、目標をより具体的に明確なものとして設定するとともに、目標に即した具体的方策を検討する。
- ・生徒の職業的・社会的自立を図るために、生徒が主体的に取り組む経験をさせる機会をより多く設定することで、様々な経験とフィードバックの蓄積を図る。
- ・就業体験や職場実習をよりよい進路選択に繋げるために、生徒の希望に沿った職場開拓を推進するとともに、障がい者雇用への理解をいただく機会を設定する。
- ・授業ミスの防止や適切なアレルギー対応を実践するために、ヒヤリハット事例の情報共有の機会を設定するとともに、年度当初にアレルギーに関する研修を実施する。
- ・系統的かつ教科等横断的な視点を深めた教育の実践に向けて、各教科の目標や単元設定について共有する場の設定や校内職員研修の充実を図る。

評価項目以外のものに関する意見

- ・全項目において、評価はボトムアップではなく、トップダウン(ゴールから見て)の方が妥当ではないか。
- ・具体的な目標をたてることで、適切な評価につながり、次年度に活かされると考える。